

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 報恩会	代表者	濱崎茂	法人・ 事業所 の特徴	建物の作りを和風にし、露天風呂や足湯を設置。ゆったりと落ち着いた空間を作り、サービスの提供ができるように心掛けている。利用者や家族の要望に柔軟に対応できるようにしている。
事業所名	パーマリー・イン 千鳥山荘	管理者	吉田 充伸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	3人	1人	1人	0人	1人	0人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	初回の為なし		常勤該当職員で取り組まれたことを理解できた。項目ごとに職員さんの声を直接聞けた感じがする。参加者も、初めての事でなかなか難しさを感じた。	初めての実施にて、施設としても模索しながらということもあり、ご苦勞をお掛けしてしまった。次回はスムーズに行なえるよう事前準備を万全に行ない実施していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	初回の為なし		正面玄関は、開設当初よりオートロックだが、気軽に立ち寄れる施設作りの為時間を制限して開放するのはどうか。地域交流スペースを使用し、地域の人も参画できる行事を行なってみてはどうか。	正面玄関を開放する時間を決め、当初は安全面を充分に確認しながら実施していく。地域包括支援センターと協働し、地域と共に出来るイベントを考案し、発信していく。
C. 事業所と地域のかかわり	初回の為なし		地域の人を対象とした見学会、介護保険の説明会等を、また開いてもらうのはどうか。	制度は説明が難しいので、寸劇等を活用した手法で、介護保険を分かりやすくする工夫を行ない、見学会・説明会を施設にて行なっていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	初回の為なし		外出行事のみにて特化してしまいがちだが、それに加えて地域のふれあい喫茶や盆踊り、自治会の催し物にこれからも参加されていくのが望ましい。	地域から切り離される事がない様、地域住民との交流や近隣の地域資源とのつながりを継続していく事にこだわっていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	初回の為なし		事業報告等を含めた内容が、口頭・書面ではなかなかイメージが付きにくい。地域の心配な方の事例検討は、行なわれていない。	卓上で会議を終始行なう事なく、必要に応じて工夫を行ない、よりご理解頂く方法を追求していく。(例・・・施設の提供食を実際に召し上がって頂く等)

F . 事業所の 防災・災害対策	初回の為なし		防災計画の細かい所まではなかなか周知されていない。訓練を行っている事や福祉避難所で緊急時は受け入れてくれる事は分かったが・・・。	備蓄食や非難受入れスペースがどの規模あるのか、災害時の施設の動きを分かりやすく地域に提示していく(何人までなら受入可能か等)
---------------------	--------	--	--	--